

心ときめかせて

モーニングダセミナイ

今日一日、朗らかに
安らかに、喜んで
進んで働きます。

<制作・著作>
新居浜別子倫理法人会
TEL 0897-65-1644
FAX 0897-65-1644
beturin@mx82.tiki.ne.jp

あなたの夢を実現させるためには、次の三段階を過程として経ると、可能性がグンと高くなるでしょう。そして、三段階の手順を踏んで、集中して実行することです。

夢の実現は三段階

▼第一段階は、思いっきり自由に「夢」を描く。▼第二段階は、目標を具体的に紙に書き留める。▼第三段階は、とにかくがむしゃらに実行すること。何よりも大切なのは、その過程を楽しむ余裕を持つこと。どんなに大きな重圧が来ても、「この未知(道)の向こうには、私の知らない、素朴な世界が広がっている」と固く信じて地道に挑戦することです。未だ見ぬ自分の可能性に、現状の殻を打ち破り、新たな道を創り出しつつ進みましょう。その際は、あなたの笑顔をお忘れなく。

われていました。そんな中、昭和基地で迎えた二度目の新年。日本に残されていた家族から隊員達へ、新年のメッセージが届けられたのです。モールス信号で送れるのは、カタカナと数字のみ。限られた通信時間の殆どは、公的機関からの指示などに費やされ、私的な電報は制限されていたのです。新年を迎えた昭和基地で、メッセージを受け取った隊員たちは、一部屋に集まり、それぞれの家族からの電文を、自分のことのように聞き入りました。隊員からは、時々笑い声が起こったり、目頭を押さえる者もいました。

新居浜太鼓祭り、いいよいよ 四国三大祭りのひとつ



川西・川東・川西部地区統一かきくらべ
愛媛県新居浜市国領川河川敷・新高橋南付近会場



平成十九年、統一かきくらべは、
秋晴れのもと市内26台の太鼓台が集結

毎年十月十六日〜十八日までの3日間開催される(今年の川西地区は十九日まで)四国・愛媛県、新居浜太鼓祭り。

太鼓台の発祥起源は、平安時代または鎌倉時代の説が一番有力に伝えられています。

特に、江戸時代後期の文政年間(1818〜1830)の頃からの記述に、太鼓台に関する内容が確認されています。

その時代は現在の様な「太鼓台」という呼び方はなく、「神輿(みこし)太鼓」と呼ばれていたようです。

太鼓台の起源は京都祇園

瀬戸内海沿岸の都市に同

派手に巨体化を遂げて来たものと言えます。

太鼓台の始まりは、祭礼の際、御輿に供奉する山車の一種として、その列に参加して厳かに供奉し、豊年の秋を感謝して氏神に奉納していました。

時代を経る毎に次第に祭りの中心的存在となつて行きました。

近年では徳島の「阿波踊り」、高知「よさこいまつり」に並び、新居浜「太鼓祭り」は四国三大祭りの一つにも数えられ、絢爛豪華かつ勇壮な男祭りとして全国に知られるようになりました。の地区において勇壮なかきくらべが披露されます。

金糸、銅糸で立体刺繍さ

(新居浜市商工観光課発行「新居浜太鼓祭り参考」)

思いを込めた言葉

世界一短いラブレター

第一次観測隊隊員、故・菊池徹の記録より



昭和三十一年、日本で初めて、南極観測隊が派遣されました。数カ月間、厳寒の地で過酷な任務を強いられる隊員達にとって、唯一の楽しみは、家族からの年賀電報。電子メールや衛星電話など全く無い当時、銚子無線電信局から送られる電報だけが、たった一つの通信手段だったのです。日本を発つて一年以上過ぎた四百十七日目。食料も底を尽きかけ、国内では観測隊員十一名の安否が気遣

ばかりを気にかけているね」というより、「頑張つて来てね」と言うことが多くありませんか。その人が、その日をどんな気持ちで、どう過ごしたのか、どんな成果をあげたのか、頑張ったのか、そうではなかったのか、そんなことを聞いてばかりいないで、成果などより、もっともっと大切なものがある、と私は思うのです。

いい日だった?

成果より大切なもの

欧米では、子供をスイミングスクールなどに送り出すときには、「いい時間を過ごしてね。楽しんできてね」と言います。

ところが日本の親は決まって「頑張つてね」と言い

ます。

そして帰って来た子どもに、欧米の親は、「どう、楽しかった?」と聞くのに対して、日本の親は、「どう進んだ?」と尋ね、まず成果を問題にしようとしま

す。

これは、子育てだけに限ったことではありません。家族、夫婦、恋人、友人にも当てはまることだと思います。

仕事に出て行く家族や、

夫に「いい日になるといいね」というより、「頑張つて来てね」と言うことが多くありませんか。その人が、その日をどんな気持ちで、どう過ごしたのか、どんな成果をあげたのか、頑張ったのか、そうではなかったのか、そんなことを聞いてばかりいないで、成果などより、もっとも大切なものがある、と私は思うのです。

他人を批判する前に、胸に手をあてて考えてみましょう。「俺は、走っているのか?」と。マラソン選手が懸命に走る姿を見ながら、したり顔で批判したり、攻撃する人がいたとしても、いざ、四十二キロのフル・マラソンを自ら走った途端、その辛さに、誰も批判出来なくなりません。

俺は走っているのか